

クリスチャン・ストームズ

インディアナ州立大学日本文化学部  
本語学科/経済学科卒業後、90年に  
来日。上智大学比較文化学部卒業後  
映画制作会社、漫画翻訳などを経験  
し、映像の道へ。映像翻訳を幅広く  
こなす傍ら、演技も勉強し、俳優と  
しても活躍。現場通訳・台詞指導も  
担当。詳しくは <http://www.big.or.jp/~neoboon/index.html>

## 初仕事は映画制作現場の通訳

大学卒業後、日本で活動しているオーストリア人映画プロデューサーのアシスタント兼通訳者として働き始め、映画「クルタ/夢大陸の子犬」で、制作から公開までの映画づくりのプロセスを学んだ。上司に感謝していることは、「通訳は一つの道具だから、積極的に頭を使って、他のスキルを身につけて、映画づくりの専門家になれ」と言われたこと。

95〜98年に、講談社共同企画にプロデューサーとして勤め、優れたストーリーを日本で漫画化し、米国で映画化する企画で、台本・企画書・契約書などの翻訳や通訳を担当。台本の構成・ドラマ性・笑いのツボなどを学んだ。

さらに、より専門的知識を学ぶため、99年に、UPSAアカデミーで演技を学んだ。僕は二期生だったが、俳優のオダギリ・ジョーさんが一期生だった。役者の視点から台本を分析する力をつけ、その後アニメ「サウスパーク」の日本語吹き替えで翻訳監修を担当。全ての収録・編集に関わりながら、役者や演出側の視点から、翻訳業というものを見直した。こ

# Translation World 翻訳者の仕事 千里の道も一歩から

## 第137回 クリスチャン・ストームズ 映画づくりの専門家として 言葉の壁を壊していきたい

をつけている。

演技と翻訳は同じだと思  
う。英語字幕をする時は、登  
場人物のバックグラウンドを  
考えて話し方を決めるので、  
まるで自分が演じているよ  
う。ここでは、意識や言葉の  
置き換えが重要になってくる  
のだ。例えば映画「恋の門」

で「恐山みたいだ」という台  
詞で「ブレアウィッチみたい」  
に言い換えていた。「トラン  
スレーション」というよりも  
「トランスライティング」が  
必要になるときもある。

台詞そのものが本来の意味  
からはみ出して別の意味を持  
つ場合がある。監督のビジョ  
ン・演技・作品のテーマ・ド  
ラマ性の要因などが台詞に影  
響を与えることも多い。今後、  
例えば映画界に新風を巻き起

の頃から、映画の翻訳では、意識が重要  
になってきていると感じた。

### 数々の現場で培った仕事力

国際映画祭への出品の為に、50本を超  
える日本映画の英語字幕版を担当。海外  
の観客にアピールする為、双方の文化を  
知っている自分が、日米の架け橋になれ  
ればと思ひ取り組んだ。僕が常に心がけ  
ていることは、「演出側が狙っている効  
果（例えば笑いなど）を国籍に関係なく  
観客に伝えること」と「字幕は要約や翻  
訳でなく、台詞にしないとダメ」という  
こと。リアルな言葉というものに一番気

こすような監督と組むなら、そこまで責  
任をもって仕事をしていきたい。

三池崇史監督の全編英語映画「スキヤ  
キ・ウエスタン ジャンゴ」で台本翻訳・  
指導、現場通訳に関わった際、出演した  
タランティノ監督に、「この台本を訳し  
た人は言葉の達人だな」と言われ、とて  
も嬉しかったのを覚えている。演出・演技・  
制作に関する知識を生かし、映画づくり  
の専門家になれて良かったと感じた。

昨年、三谷幸喜監督脚本・演出により、  
ニューヨークで公演されたミュージカル  
「トークライクシンキング」で制作に参  
加。2ヶ月間の稽古では、台本が大幅に  
変わり、歌詞翻訳・台本修正で必死にな

りながらも、主演の香取慎吾さんなどへ  
の台詞指導も担当した。ストーリーや役  
者の演技でよく涙を流した僕だが、「ア  
メリカ人のお客さんが、少しでも感動し  
てくれたら幸せだな」と思いながら仕事  
をしていたので、評価をいただいた時は  
とても嬉しかった。また文化や言葉の壁  
を壊すことができたと感じた。

昨年の12月から今年の5月までケネ  
ス・ブラナー監督のハリウッド映画  
「Thor」で浅野忠信さんの台詞指導・  
現場通訳を担当していた。役者と親しい  
距離感を持ちたい監督だったので、通訳  
であれば透明人間の意識した事はなか  
った。気づいたのは映画づくりが既に世  
界の共通言葉となっているということ。  
主演経験が豊かな浅野さんと監督の間で  
は僕の通訳が必要ない時もあった。現場  
特有の、簡略化した表現で二人は話し合  
っていた。このような時は、通訳者とし  
て居合わせなくても良い。タイミングが  
大事なのだ。

ミケランジェロの名台詞「aesthetic  
learning」に従って、今後マルチナ才  
能を活かし、広い視野と知識欲を自分の  
武器にしていきたい。

### 次の一歩

トニー・キムさん (Tony Kim)  
日経新聞の翻訳やAERAの記事翻訳を  
担当していた経歴を持つ。現在は主筆、映  
画字幕と書籍の翻訳を行う。今年発売され  
た訳書は「Rediscovering Japanese  
Business Leadership」(Yozo  
Hasegawa著) だ。